

浄敬寺だより



迎春

発行日 平成二十七年一月一日 第二十四号

【法語】

「仏法は一人居て悦ぶ法なり。
 一人居てさえ、とうどきに、
 二人よりあわば、
 いかほどありがたかるべき。
 仏法をば、ただ、より合い、
 談合申せ」
 の由、仰せられ候うなり。

蓮如上人御一代記聞書 二〇一

【意識】

「ただ一人居る時も、喜びの心がおこってくるのが
 仏法である。一人でいるときでさえ尊く思われる
 のだから、二人が会って話し合えば、
 どれほどありがたく感じられることであろうか。
 とにかく仏法のことについて寄り合って話し合い
 なさい」と仰せになりました。

2014年後半写真展



別院お取り越し ↓ ↑



← ↑ ↓ しまい講



↑ 年末法話会 ↓



秋彼岸

☆巻頭法話『年頭にあたり』☆

御門徒の皆様、新年明けましておめでと〜ございませう。一年が過ぎるのが本当に早く感じられますが、新しい年を迎え、いただいた日めくりカレンダーの厚さにまた一年が始まったのだなと実感しています。それと同時に、一日一日の積み重ねを生きているのだと思わずにはおられません。「今日あなたが無駄に過ごした一日は、昨日死んだ人がどうしても生きなかった一日である。」という言葉があります。一年365日、生きるのが当然のように考えている私たちですが、そんな約束は誰にもされていないというのが仏様の教えでもあります。「今日とも知らず、明日とも知らず」という現実から目をそらすことなく、今という時間を大切に生きていきたいものです。

今年、五月十九日から五月二十四日まで、三条教区・三条別院の宗祖七百五十回御遠忌が勤まります。四年前に京都の東本願寺で御遠忌が厳修されましたが、このたびは、地元三条別院での法要です。

言うまでもなく、宗祖の御遠忌は五十年に一度勤まる法要です。その時代の民衆とともに、厳しい現実の中、真の人間として生きる道を求められ、私たちの上に仏教が容易に実現するようにと、阿弥陀如来の本願念仏（南無阿弥陀仏）の教えをすすめてくださった宗祖に出会い、共に教えを確かめ合い、感謝する機会としてお勤めされるものです。地元寺院間で団体参拝の計画がありますので、一人でも多くの皆様と参拝できることを願っております。

ます。

親鸞聖人は、自らが本願念仏の教えに出逢われた喜びと感謝の念を和讃によまれています。皆さんもよくご存知の「如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も ほねをくだきても謝すべし」という和讃で、恩徳讃として歌っているものです。

「身を粉にしても」「ほねをくだきても」などという感覚は現代人には程遠いものになってしまった気もしますが、宗祖の仏縁への激しいまでの深い感謝の思いがそこに感じられます。「恩は返せるものではない。ただ謝するのみである」御遠忌を通して改めて宗祖の御恩徳に触れさせていただき、報恩感謝の生活を取り戻していきたいと願っています。

なお、この度の御遠忌の日程が、浄敬寺の毎年の報恩講お引上げ（五月十九日）と重複いたしますので、浄敬寺報恩講お引上げは、一週間繰り下げ、五月二十六日にさせていただきます。共々よろしくお願い申し上げます。

合掌

（住職）

☆住職からのお知らせ

○浄敬寺同朋の会旅行

真宗本廟（東本願寺） 報恩講御満座参拝と京都錦秋見学の旅を計画しました。

日程 十一月二十六日（木）～二十八日（土）

※京都の素晴らしい紅葉を見学し、坂東節が勤まる本山 報恩講御満座（十一月二十八日）に参拝する旅です。

※費用は六万三千円を予定しています。

※定員は三十人 バス旅行になります。

※後日案内兼申込書を作りますので、参加希望者は今から予定していただければ幸いです。

○当院が浄敬寺に戻りました

約5年間新潟市の満行寺にお世話になっておりました当院（永寶卓）が十二月二十日付けで退職し、柏崎に帰ってまいりました。今後、何かの機会にお参りに寄せていただくことがあろうかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

○境内整備工事について

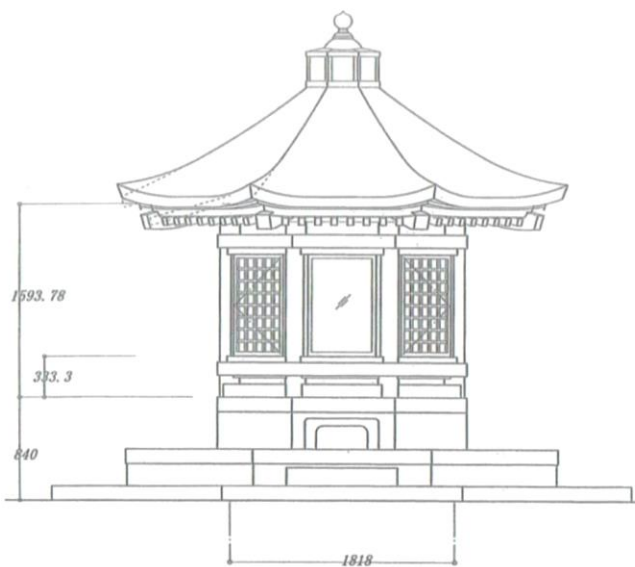
昨年から境内地整備工事をさせていただいております。荒れていた門の脇の小高い山を崩させてもらいました。この山にはかつて釣鐘堂が建っており、戦争で鐘は供出されたため、堂だけが残っていましたが、それも昭和三十六年の大雪で倒壊、以後荒廃していました。近年坊守が茂って

いた笹を刈り、樹木や花を植えてみましたが、特に地震の後は土が流れ、石垣も危ない状態でした。この度の工事で、境内地がかなり広くなり、新たな活用の場となります。これから、木塀を立てたり植栽したり、ゆくゆくは舗装したりという仕事が残っていますが、毎年の経常費の中で、数年に亘り継続して行わせていただきたいと思います。役員様方と相談しながら行っていきますので、よろしく御協力のほどお願い申し上げます。

○永代供養墓建立のお知らせ

近年、継承者のいないお墓が社会問題になっています。浄敬寺には境内入り口の観音様の台座の中に社会的に無縁になられた方のお骨をお納めしている福祉墓形式の施設がございますが、それとは別に、お墓を継承する方がいない浄敬寺門徒様を対象にした永代供養施設を夏までに建設する予定をしております。

これは一般的なお墓の形式をとらず、荘厳な木造八角堂建築とし、合祀（お骨を一緒にして埋葬する）を基本としますが、御希望によっては、一定期間お骨箱のまま個別にお預かりすることもできます。関心のおありの方は、ご相談ください。



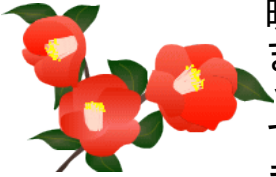
庫裡便り 坊守より

◎十一月十一日、十組坊守会研修会の会場になりました。講師は前宗務総長の安原晃先生でした。本山御遠忌が始まる直前の東日本大震災と、その法要をどのように勤めるかの決断など、大変な御苦勞をされました。「人は謙虚でなければ目が覚めることはない。聞法の道場を預かる者としての意識もそこから生まれる」など、心に残る言葉を沢山いただきました。

◎春には一年生、年中児、一歳半とパワー溢れる子どもたちのため、当院は五年間の新潟市満行寺様での勤めを終え、寺に帰ってまいりました。よろしくお願いいたします。

◎十一月五日、十組から十四名の方々と三条別院報恩講の音楽法要に参加しました。女性僧侶によるお勤めに准坊守（晴香）も参加し、合唱団と一緒にのお勤めに参加者一同感動でした。

◎赤倉有縁講に浄敬寺は七名で参加しました。ゆっくり法話を聞かせていただき、身も心も暖まってきました。



境内整地工事
の様子

☆第二十二回 晴香の『真宗門徒のマメ知識』

今回のテーマは『三条別院御遠忌』です。

ちよっくら
解説!

以前からお知らせしていた三条別院の御遠忌がいよいよ迫ってきました。ぜひこの機会に法要に遇っていただきたいと思います、ちよっくら解説いたします。

☆御遠忌とは

東日本大震災の起きた二〇一一年、本山（京都・東本願寺）において七五〇回御遠忌が勤まりました。報恩講は御存知のとおり親鸞聖人の御命日の法要ですが、御遠忌とは五〇年に一度お勤めする大きな節目の法要で、全国各地の別院、一般寺院においても行われます。

☆三条別院御遠忌法要の日程

三条別院においては、二〇一五年五月十九〜二十四日に宗祖親鸞聖人の七五〇回御遠忌法要をお勤めすることになり、準備をすすめてきました。

御堂のキャパシティの関係もあり、参詣日が教区内の各組（地域ごとに分けられたグループ）に割り当てられ、浄敬寺の御門徒の皆様からお参りしていただける日は十九日（火）と二十三日（土）となっております。この両日とも午前中の法要は音楽法要形式で勤まることになっておりますので、昨年同様に合唱団として参加していただける皆様、どうかよろしくお願い致します。初めてののご参加でも、仏教讃歌に興味のある方はお知らせください。

また、二十四日（日）の御満座には稚児行列があります。お子様、お孫様をぜひお誘いください。

5

☆御修復完了

本山・東本願寺では、御遠忌の前から現在に至るまで、阿弥陀堂・御影堂の瓦の葺き替えと屋根組の修復、山門の修復などが行われていますが、別院でも御遠忌に合わせて老朽化の進んでいた御堂の御修復工事を行い、昨年秋に工事が完了しました。

御門徒の皆様のご懇志で機能的に美しく仕上がった御堂です。何と言っても、お参りする方あってこそ…の御堂ですので、ぜひこの機会に別院へ足をお運びください。

☆関連行事のおしらせ

① 讃仰講演会

「親鸞さんにあおう」をテーマに掲げた講演会です。今後の開催は、

* 一月二十四日（土）祖父江佳乃氏（節壇説教）

講題「今を生きる親鸞聖人御一代記より『念仏停止の法難』」

* 三月四日（水）太田浩史氏 * 三月二十四日（火）玉光順正氏

* 四月十一日（土）三木彰円氏

祖父江氏の講演には寺から車を出しますので、お聞きになりたい方はお知らせください。

② 子ども御遠忌 パパ・ママさん朗報です!



子ども達にも親鸞様の教えに出遇ってもらいたい、育児中の若い世代にもお念仏のご縁を・・・という願いのもと、四月四・五日（土日）に「子ども御遠忌」が開催されます。子どもと一緒に努める法要だけでなく、楽しい企画が盛り沢山。本山ゆるキャラやバルーンアート、ヒーローショーまであるとのこと。ぜひお出掛けください。



☆二〇一四年後半を振り返って 行事報告

◎秋彼岸（お中日九月二十三日）法話 住職

仏の救いの目当ては、煩惱深い私たちそのものです。親鸞聖人はその心を攝取不捨という言葉で表わされています。攝取不捨とは、煩惱深く、人生の苦しみ悲しみに沈んでいる私たちを決して見捨てないという慈悲の心であり、即ち、私たちのその苦しみを悲しみこそが、御仏の大悲の心に出会う尊いご縁でもあります。

法話に続き、勤行、おときがあります。ぜひお参りください。

◎三条別院報恩講お取り越し 団参（十一月六日）

今年は今後からの中速夜のお勤めと御伝鈔を拝聴するという日程で参拝してきました。初めて別院に足を運んでくださった方も含め、浄敬寺御門徒の皆様にも多数ご参加いただきました。

近年お引上げで今泉先生から絵解き法話をしていただいている御伝鈔。御伝鈔を乗せた卓（じよく）や燭台（しょくたい）を運ぶ練り出しなど、別院や本山でなければ目にするのできない儀式に遇っていただくことができました。住職は十組組長として内陣に、准坊守も外陣の助音として出仕してまいりました。

◎しまい講（十一月三十日）法話 住職

住職より法話があり、その後勤行、おときがありました。法話の内容は次のとおりです。

「門徒もの知らず」ということが言われますが、これは「門徒物忌み知らず」が語源です。浄土真宗の教えは迷信俗信にとらわれません。私たちにあって、今日という一日は後にも先にもない、たった一度きりの一日なのです。大事なことは、かけがえのないこの「いのち」を精一杯輝かせて生きていく、そんな一日にしていくことです。

当日のおとぎの準備には、下原地区の皆様からご尽力いただき、美味しいおとぎを皆様に召し上がっていただくことができました。

◎年末法話会（十二月十四日）法話 田澤 一明 師

近年、世間では死を遠ざけようとする風潮になってきています。そんな中、ドイツの哲学者アルフォンス・デーケルは、いま現代人には身近な人が亡くなることを考える教育「悲嘆教育」を推奨していると紹介されました。

デーケルの悲嘆教育は、人間が身近な人の死に直面した時に、十二段階の行動を取ると分析しています。デーケルはその行動を認識し、対処を考える必要性を説いています。仏教では、死の苦しみを悲しみを消すのではなく、苦しみや悲しみを共有を説いています。

老病死を見ないことで生を豊かにしようというのが現代。仏教は老病死を見ることが生を豊かにする。どちらが本当に人間を豊かにするか、それを考える日が来るかもしれない。その日が亡き人と出会う時であると言われます。

最後に、先生は恩師から「人を二度死なせてはならない」と言葉を贈られたそうです。人を二度死なせてはならない、その意味は、亡き人を忘れてはならない、亡き人の言葉を忘れてはならない。それが生きている私たちに大切なことではないでしょうか。

（ 当院 記 ）

☆二〇一五年前半の行事予定

一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一〜二日 年始参

*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

二月十四日(土) 正信偈をよむ会 午前九時〜

三月七日(土) 正信偈をよむ会 午前九時〜

三月十四日(土) 柏刈同朋会報恩講(産業文化会館) 午後一時三十分〜

三月十八〜二十四日 春彼岸

*お中日 二十一日(春分の日)

午前十時半〜法話・勤行後・おとき

四月十一日(土) 正信偈をよむ会 午前九時〜

五月十九〜二十四日(土) 三条別院御遠忌

浄敬寺団参 十九(火)、二十三(土)

五月二十六日(日) 報恩講お引き上げ 午前十時〜

法話(今泉 温資 師)

引き続き 勤行(御満座)・おとき

(注) 三条別院御遠忌の為、例年より一週間遅らせて勤めます

六月六日(土) 正信偈をよむ会 午前九時〜

六月十三日(土) 十組仏教文化講演会(産業文化会館)

六月二十八日(日) 夏の法話会 午後一時半〜

講師 佐野 明弘 師

(加賀市光闡坊住職)

七月十四日(火) 盆参会(盆内) 両日とも十時半〜

十五日(水) 法話・勤行・おときがあります

八月二日(日) 夏休み子供の集い 午後四時より

八月十三日〜十六日 孟蘭盆会(お盆)

十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

定例会『正信偈をよむ会』ご案内

*日時 第二土曜日午前九時より

*内容 『正信偈』の解説や読方、御文拝読

基本的に第二土曜日に開催しておりますが、今年には教区や組の行事との関係で、第一週目に変更の月がありますので、ご注意ください。

おんみつ
『隠密』

隠密といえば、忍者を想像します。次男の顕信は兄弟の中でも特に忍者好きです。幼稚園の発表会で忍者にふん装できるチャンスが回ってきましたが、残念ながら水ぼうそうで欠席してしまいました。妻は忍者姿を見られず泣いて悔しがりましたが、本人は嬉しいときのキメポーズを忍者のポーズに決めたようで、それなりに満足しているようです。

忍者は密かに隠れて行動するので隠密ですが、仏教で隠密とは、本当に大切な言葉を意図的に隠すことを差します。お経の意図には『顕彰隠密（けんしょうおんみつ）』がある。親鸞聖人は言われました。これは表の意味と隠された意味があるということです。顕彰（表の意味）は修行をして覚りを得ること、隠密（裏の意味）は阿弥陀様のお力で覚りを得る（＝他力）のことです。私たちの生活を振り返って見ても、本当に大切なことは、見えないところにあるのかもしれない。

（ 当 院 ）



☆編集を終えて：

巻頭の法語は昨年から問題となっている「集団的自衛権」と、集団行動の苦手な我が子を意識して選びました。生きていくうえで集団行動は確かに大切なスキルです。しかし時に集団は、個を尊重することを見落としてしまいます。まずは身近なところ、子ども達や家族への言葉と態度から改めて、暴力に加担しない生き方を選びたいものです。仏法に出遇ったならば、一人で居ても集団であっても、「ともに」の世界を想い描くことができるのではないのでしょうか。本年もどうぞよろしくお願い致します。

（ 晴 香 ）

☆メールアドレス

住職 tomie814@kismet.or.jp
当院 minipapa@kismet.or.jp
晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ご意見ご感想をおきかせください。

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺
小僧☆はるかのかの気まぐれ日記』
http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga



本年もよろしく
お願い致します